

中期目標・中期計画（期間 2025年4月～2029年3月）

急速にすすむ少子化と混迷を極める社会を前にして、その解決の担い手となる人材を送り出す大学の役割はますます高まる。貴重な若者であるからこそ、多様な学生を誰一人取り残すことなく、社会で一定の役割を果たせるように育てることが求められる。男女格差が根強く残る日本の社会では、柔軟性、個性ある対応が可能な小規模女子大学の役割はまだまだ存在するといえる。それだけに、社会的使命を全うしないまま、閉校していくことには忸怩たる思いがあるものの、「徳と知」の建学の精神と、行動指針としての「ミッション・コミットメント」に基づき、混沌とした社会を生き抜く知恵や見識と、社会に共生、協働の和を広げる人間性を養成する、少人数の女子教育に最後まで徹底して取り組む。同時に創設以来育んできた京都、北山の地域との関係性を尊重し、研究成果の還元や教員、学生の地域への貢献活動を引き続き推進する。連携大学をはじめこれまで関係を深めてきた他大学や連携先企業、団体、それに卒業生などの協力を仰ぎながら、教育・研究活動や学生の課外活動などを活発に展開、最後の卒業生を見送るまで情報発信していく。

対話と実践による女性支援教育

- ①批判的、総合的思考力と人間性を養う経験学習の充実化
- ②教育の基軸とする「国際性」の新たな展開と深化
- ③学修意欲を誘発し主体的な学びを保证する制度やカリキュラムの維持・運営
- ④初年次教育から卒業研究まで一貫した個別対応重視の教育体制の整備、継続
- ⑤授業手法の多元化と綿密な履修指導による個別最適な学修環境の提供

人と文化に関わるエッセンシャル研究

- ①地域の諸課題に取り組む研究や地域特性を活かした研究を奨励、強化
- ②研究成果の地域への積極的な発信、還元
- ③開かれた研究拠点として、外部機関との連携や学会・研究会の誘致

個別性、重層性ある学生支援

- ①合理的配慮の促進、日常化
- ②多拠点サポートによる学習支援のさらなる充実化
- ③正課授業外の社会的、文化的活動の奨励、支援
- ④学生の学びやアメニティに資する行事、イベントの創出

グローバルな社会連携・貢献

- ①カトリック精神に基づくグローバル・ミッションへの取り組み
- ②京都府、京都市、左京区、および京都の企業との連携活動の継続、充実化
- ③「知の拠点」としてのリカレント教育と地域の聴講需要にそった公開講座の推進

女性支援拠点としての安定した大学管理・運営

- ①教育、研究活動を保证する人事体制の維持、整備
- ②教育、研究活動を保证する財務計画
- ③財政状況を踏まえた施設の維持管理計画
- ④IT環境の最適化を図るシステム、機器の整備、管理
- ⑤教育、研究活動及び大学運営に関する大学ステークホルダーへの適切な説明と社会への情報発信